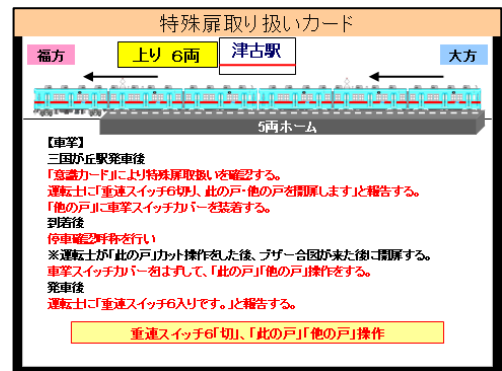


業 種	鉄道
取組分野	教育・訓練
テ ー マ	現場係員が主体となった事故防止のための取組
取組の狙い	現場係員が主体となって、安全上の課題の抽出、傾向分析、対策立案及び実施までを小集団活動で取り組み、事故の未然防止を図る。
具体的内容	<p>西日本鉄道（株）運転職場では、列車の安全運行を目的に、現場係員が主体となって小集団活動等を行う組織として、あんしん委員会を平成9年に設置し、事故未然防止等について定期的に議論を行い、安全に関する取組の推進を図っている。</p> <p>委員会での取組は、職場全体の取組となるため、助役、主任、所長等の管理者と意見交換を行いながら議題を設定するが、現場係員が自ら計画し、責任をもって取組を実践することで、現場係員にとっても「やらされる取組」から「自ら行なう取組」に変化しつつある。</p> <p>また、委員会の活動へのより積極的な参加を促すために、毎年8月に開催している運転業務研究発表会にて、優れた取組を表彰し（景品含む）、最優秀賞を受賞した職場には鉄道運転協会主催の運転業務研究発表会へ参加する機会を与える等の取組も行っている。</p> <p>以下、委員会の具体的な活動事例として、近年の事故発生状況の分析を行い、事故の中で危険性、発生頻度の高かった事故の一つである「特殊扉取扱い時の誤操作」について、事故防止のための取組を行った事例を紹介する。</p> <p>1. 扉操作の問題点</p> <p>列車長に対してホームの短い駅ではホームに着いていない車両の扉を開扉しないよう車掌が特殊扉取扱いを行なうが、誤操作が毎年数件発生している。小集団活動において、過去に発生した誤操作について調べると車掌経験年数が3年未満の若年者が全体の7割を占めていることが判明した。発生件数こそ少ないが死傷事故につながる危険性が極めて高く、早急に若年車掌に対する新たな対策が必要となった。</p> <p>2. 若年車掌に対する特殊扉取扱い教育の強化</p> <p>(1) 従前の一方向的な教育ではなく、若年者が実際に疑似体験を出来るよう、模型及び車掌スイッチや重連スイッチを設置した模擬車掌台を製作した。</p>



(2) 上記(1)の対策は若年車掌に好評であったが、一過性の取組とならないよう効果的な使用方法を検討した結果、一日の担当列車の列車番号・発車時刻・到着時刻を記載した「行路表」を作成し、当日の勤務の特殊扉取扱いの有無を確認する。また、車掌は駅毎の特殊扉取扱いに関する事項(列車の編成数と駅毎のホーム長の図、作業手順等)を記載したカードにより、運転士との相互確認、また管理者との質疑応答により細かい注意点を確認する。



取組の成果

現場係員自らが責任を持って、意欲的かつ自発的に課題の抽出から実施までを取り組むことが、現場係員の取組に対するモチベーションアップにつながり、小集団活動が活性化するとともに、職場全体の活性化へとつながっている。



また、今回の事例「若年車掌特殊扉取扱い教育」においては、実務面において以下のような効果が得られた。

1. 出勤時に一日の勤務における注意箇所のポイントを把握する事で、乗務行路のイメージと心の準備ができるようになった。
2. 乗務直前の再確認により不安や焦りが無くなったことで、落ち着いた状態で正しい取扱いを行うことができるようになった。
3. 停車場における連結解放、閉そく方式変更時における取扱いおよび踏切事故の処置等の場面も模型で再現可能となり、直感的なイメージにつながるという相乗効果が得られるようになった。

事業者名

西日本鉄道株式会社 鉄道事業本部計画部安全推進課 池田
(連絡先：092-734-1485)